

2 がん専門の医療従事者を配置します(5年以内)。

がんに関する専門的な知識をもつ医療従事者を配置し、がん医療の質の向上を目指します。

(1) 医師

○ 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医または日本がん治療認定医機構がん治療認定医を1名以上配置します。

○ 日本放射線腫瘍学会認定医を1名以上配置します。

(2) 看護師

○ 外来化学療法室にがん化学療法看護認定看護師を1名以上配置します。

○ 日本看護協会認定看護師(皮膚・排泄ケア、緩和ケア、がん性疼痛看護、乳がん看護、訪問看護のいずれか)または日本看護協会専門看護師(がん看護)を1名以上配置します。

(3) 薬剤師

○ 日本病院薬剤師会がん専門薬剤師を1名以上配置します。

(4) 診療放射線技師

○ 日本放射線治療専門技師認定機構放射線治療専門技師を1名以上配置します。

○ 放射線治療品質管理機構放射線治療品質管理士を1名以上配置します。

3 放射線療法及び化学療法の推進

名古屋第二赤十字病院を放射線療法の拠点とし、名古屋医療センターを化学療法の拠点として推進するとともに、医療従事者に対する研修も実施します。

4 たばこ対策

○ 平成20年10月1日より敷地内全面禁煙とします。

5 院内がん登録(5年以内)

○ 院内がん登録の登録率を100%とします。(個人情報保護法の規定に十分配慮するとともに、患者・家族が登録を希望しない場合は登録率の計算からは除外します。)

6 情報公開

○ 5大がん(胃がん、肺がん、大腸がん、肝がん、乳がん)の5年生存率を公開します。

7 相談支援体制の充実

相談支援センター間で情報を共有化し、いずれの病院で相談しても均しく適切な相談支援が受けられる体制を整備し、相談支援の質の向上を目指すとともに、相談支援センターの広報にも積極的に取り組みます。社会保険中京病院を相談支援の拠点と位置づけます。

- 相談支援センター連絡会議を開催し、情報交換するとともに、相談支援センター全体で取り組むべき課題について検討します。
- 相談支援センター相互の情報交換を容易にするため、メーリングリストを作成します。
- 相談支援センターなどの相談窓口やがん患者の支援活動を行っている団体（患者会など）を紹介するリーフレットを作成し、積極的に広報します。

* 以上の取り組みには、がん診療連携拠点病院以外の相談支援センターを設置している病院の参加も募ります。

8 小児がんへの対応

学校への復帰など、小児がん患児の退院後の生活を支援するため、平成20年度より、小児がん症例の多い名古屋医療センター、名古屋第一赤十字病院、名古屋大学医学部附属病院などとともに、保健所が中心となり、病院と学校の連携体制を築きます。

9 がん診療連携協議会の機能強化

愛知県がん診療連携協議会に以下の部会を設置し、名古屋大学医学部附属病院及び名古屋市立大学病院の協力を得て、県がんセンター中央病院が中心となり、拠点病院全体で効率よく課題に取り組みます。

- ① 研修計画・診療支援に関する部会
がん専門の医療従事者を育成するための研修会の企画調整、診療支援医師の派遣調整など
- ② 院内がん登録に関する部会
院内がん登録データの分析、評価など
- ③ がん医療に関する情報交換に関する部会
がん医療に関する情報の共有化
- ④ 地域連携クリティカルパスに関する部会
地域連携クリティカルパスの整備

* 名古屋第二赤十字病院の都市型地域医療連携をモデルケースの一つとします。

10 名古屋医療圏のがん診療連携拠点病院の体制

名古屋大学医学部附属病院及び名古屋市立大学病院は、その豊富な人材と高度な診療能力を活かし、都道府県がん診療連携拠点病院である愛知県がんセンター中央病院を補佐します。また、名古屋医療センター、社会保険中京病院、名古屋第一赤十字病院、名古屋第二赤十字病院の4病院は、名古屋医療圏（名古屋市1市1医療圏）を東西南北の4地域に分けた各地域を担当します。

さらに、上記6病院は単に各地域における拠点病院としての役割にとどまらず、その得意とする分野において全県的な拠点としての役割をはたすことにより、県内のがん診療連携体制を強化します（別添参照）。

- (1) 愛知県がんセンター中央病院を補佐
 - 名古屋大学医学部附属病院（がん専門の人材育成の拠点）
 - 名古屋市立大学病院（精神腫瘍学・名古屋市のがん対策の拠点）
- (2) 北部（尾張中部医療圏をカバー）
 - 名古屋医療センター（化学療法・小児がんの拠点）
- (3) 南部（知多半島医療圏をカバー）
 - 社会保険中京病院（相談支援の拠点）
- (4) 西部
 - 名古屋第一赤十字病院（骨髄移植・緩和ケアの拠点）
- (5) 東部
 - 名古屋第二赤十字病院（放射線療法・都市型地域医療連携の拠点）

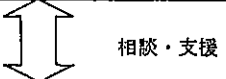
名古屋医療圏のがん診療連携拠点病院の体制

別添

北部及び尾張中部(名古屋市北部に隣接)

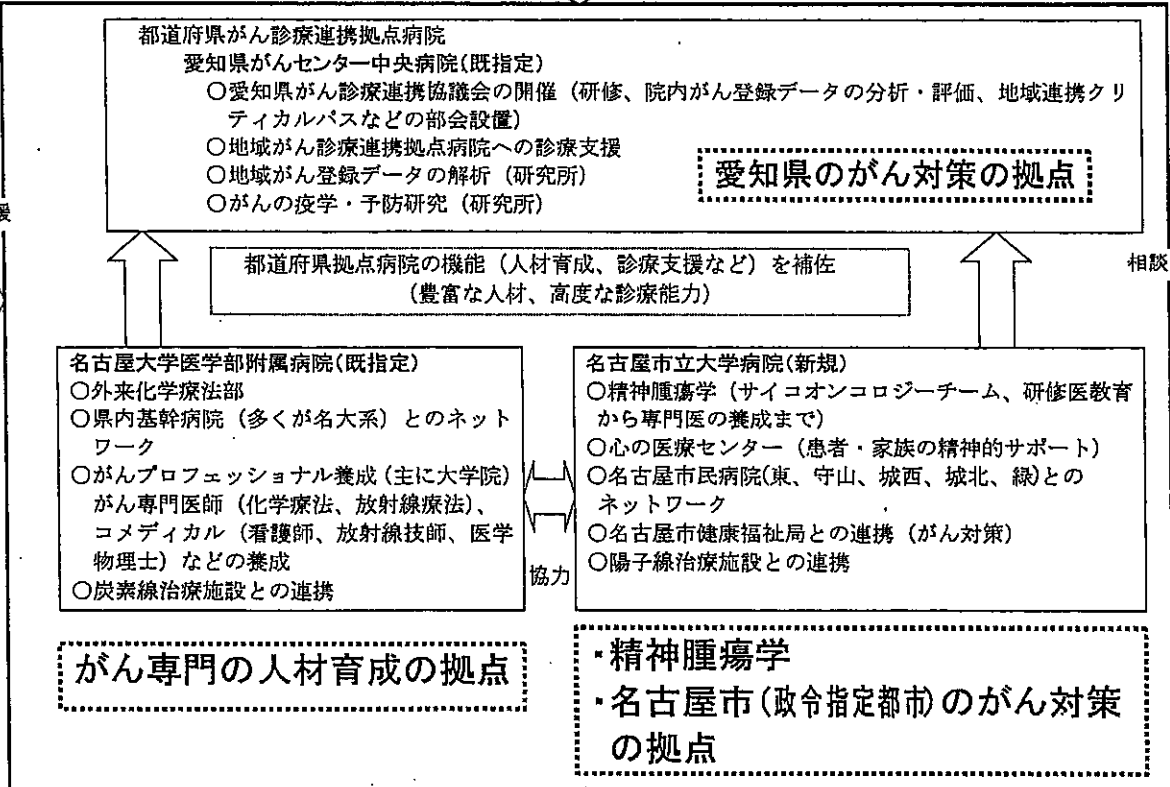
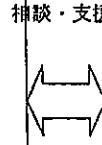
名古屋医療センター(更新)
 ○化学療法(日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医3名配置、外来化学療法の普及・整備)
 ○小児がん(常勤 child life specialist の緩和ケアチームへの参加、治療終了後の支援・学校との連携)
 ○尾張中部医療圏(人口約15万人)をカバー
 ○全国がん(成人病)センター協議会加盟

・化学療法
 ・小児がん
 の拠点



西部

名古屋第一赤十字病院(新規)
 ○造血幹細胞医療センター
 ・骨髄移植
 ○小児医療センター
 ・小児血液腫瘍科
 ○緩和ケア病棟
 ○がん認定看護師
 ○がん専門薬剤師
 ○日本看護協会実習指定病院
 ○PET



東部

名古屋第二赤十字病院(新規)
 ○高精度放射線治療センター
 ・トモセラピー(県内初)
 ○病診連携(名古屋市医師会)
 ・多数の登録医
 ・登録医専用病床(2床)
 ・多数の紹介・逆紹介患者数
 ○名古屋市内救急輪番制(小児科、産婦人科)
 ○悪性リンパ腫
 ○泌尿器系がん
 ○大腸がん(腹腔鏡手術)
 ○地域がん登録への協力(届出件数県内第1位)



・放射線療法
 ・都市型地域医療連携
 の拠点

南部及び知多半島(名古屋市南部に隣接)

社会保険中京病院(既指定)
 ○相談支援(地域連携を含む、専任看護師(助産師)配置)
 ○緩和ケアチーム(緩和ケア診療加算チーム)
 ○知多半島医療圏(人口約59万人)を当分の間カバー

相談支援の拠点

